

平成27年度施策評価シート

基本施策	資源循環型社会の実現を図る		
総合計画での位置付け	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	分野	6	環境・衛生
主要な計画	・環境基本計画 ・ごみ処理基本計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・本市においては、ごみの排出量は減少、資源化率は上昇傾向にあったが、近年は可燃ごみが増加傾向、資源化率が横ばい状況となっている。しかし、平成20年10月から、市内の一部店舗においてレジ袋有料化の取り組みが実施されており、今後一層減量化意識の高まりが期待されている。</p> <p>・本施策は資源循環型社会の実現を図るため、ごみの減量化や資源化、収集処理業務の効率化、処理施設の整備を目的としている。</p> <p>・本施策は、豊かで美しい自然のなかで、飛騨地域の中核都市として利便性の高い都市的サービスを受けながら安全で快適な暮らしを実感できる「すみよさ」のあるまちづくりをすすめるため、資源循環型社会の実現を図ることを目的としている。</p>		

1 概要

施策	施策の内容	これまでの取り組み	担当局
1 ごみ減量化や資源化	ア ごみの減量化に対する意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・無料配付した可燃ごみ処理券の未使用分を町内会やボランティア団体が回収し、回収枚数に応じて報奨金を交付する制度により、可燃ごみ処理券の使用枚数を減らしごみの減量化を推進した。 ・家庭用生ごみ堆肥化装置設置補助金を交付し、堆肥化装置設置による生ごみの減量化推進を行った。 	環境部政策
	イ ごみの資源化に対する意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル推進員の活動により啓発を行った。 ・「高山市のごみの分け方・出し方」を全戸に配付し、ごみの資源化啓発を行った。 ・資源回収事業を行った団体に、回収量に応じた奨励金を交付し、ごみの資源化意識の高揚を図った。 ・リサイクルセンターや支所などでリフォームフェアを開催し、廃棄物の再利用に対する意識の高揚を図った。 	環境部政策
	ウ ごみの排出方法や現行のシール制の見直しなどについての検討	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済小型電子機器の分別収集を開始した。 ・ごみの減量化に向けた対策として、搬入物のサンプリング調査等を行った。 	環境部政策
2 率収集処理業務の効	ア 適正処理への指導	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル推進員説明会、委託業者等説明会、全戸配付したごみ分別用の冊子、及び広報や市のホームページなどで、廃棄物の適正処理方法の啓発を実施した。 	環境部政策
	イ 関係機関と連携した廃棄物の不法投棄の防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄パトロールを実施し、不法投棄の早期発見に努めた。 ・不法投棄物の調査、投棄者への指導を高山警察署、県関係機関と連携して実施した。 	環境部政策
3 処理施設の整備	ア 資源化施設や処理施設などの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却施設の制御コンピューターの更新などによる延命化対策を行った。 ・新ごみ処理施設(焼却施設)の建設に向けた調査・検討及び建設候補地周辺町内会への説明会を行った。 	環境部政策
	イ 処理施設周辺の環境対策	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却施設のばいじん、ダイオキシン等除去設備の適正な維持管理を行い、環境測定を定期的を実施した。 ・埋立処分地においては、分別の徹底や覆土による悪臭対策を実施した。また埋立処分地から浸出する汚水の適正な浄化処理を行った。 	環境部政策
	ウ ごみの埋立てが完了した処分地の利用についての検討	<ul style="list-style-type: none"> ・資源リサイクルセンター第1次埋立処分地はほぼ埋め立てが完了しているが、埋立処分地の地盤や水質などの安定化を確認するため、今後も状況を調査しながら検討を行っていく。 	環境部政策

2 指標の推移

指標名	単位	関連施策	好ましい方向	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標
家庭系一般廃棄物の量	t	1-ア	↓	19,392	19,222	19,491	19,652	19,754	22,804	19,124
資源ごみ資源化量	t	1-イ	→	3,361	3,364	3,277	3,289	3,239	3,341	3,729
集団資源回収量	t	1-イ	→	2,644	2,651	2,490	2,317	2,102	1,962	2,639
リフォームフェア開催回数	回	1-イ	→	16	15	15	20	19	20	20
一般廃棄物収集運搬許可事業者説明会開催数	回	2-ア	→	2	2	2	2	2	2	2
不法投棄監視パトロール日数 不法投棄指導件数	日	2-イ	↑	20	20	62	70	30	31	20
不法投棄者指導件数	日	2-イ	↑	5	5	7	11	2	2	-
焼却処理施設ダイオキシン類等測定値 埋立地浸出水処理水等測定値		3-イ	→	測定結果 すべて排出基 準値内	測定結果 すべて排出基 準値内	測定結果 すべて排出基 準値内	測定結果 すべて排出基 準値内	測定結果 すべて排出基 準値内	測定結果 すべて排出基 準値内	測定結果 すべて排出基 準値内

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21	点数	63.5	(平均) (54.6)	85.2	(平均) (79.7)	II	やや高い
	順位	42施策中 4 番目	42施策中 13 番目				
H25	点数	66.8	(平均) (56.9)	84.5	(平均) (81.8)	II	やや高い
	順位	43施策中 5 番目	43施策中 17 番目				
H27 (今回)	点数	66.1	(平均) (56.0)	85.0	(平均) (81.2)	II	やや高い
	順位	43施策中 5 番目	43施策中 14 番目				

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		環境政策部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	ごみ減量化 資源化	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみの1人1日当たりの排出量(排出原単位)が平成22年度までは減少傾向であったが、その後はわずかに増加傾向になった。家庭ごみのうち可燃ごみが増加傾向にあり、資源ごみが減少傾向にあることから、減量化とともに資源化の推進が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3Rの推進により循環型社会形成の推進を図る。 分別ルールの徹底を図り、資源化を推進する。
2	収集処理業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみ収集業務を全て委託化したことにより効率化を実現するとともに、収集運搬業者に対する説明会を開催し、収集業務の確実な履行と事故防止などについて徹底を図った。 不法投棄について、広報で防止啓発を実施するとともに、警察署及び関係機関と連携して違反者の特定及び指導を行い、不法投棄防止に取り組んだが、依然として不法投棄の撲滅に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみ収集業務の委託化を継続するとともに、人口減少等によるごみ排出量の減少に対応した収集区分や収集頻度等の最適化により効率化を図る。 不法投棄防止対策として、看板の設置や広報などにより啓発を図ることや、違反者への指導を強化する。
3	処理施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> 現有施設の適正な維持管理及び周辺環境調査を実施するとともに、調査結果を周辺町内会に説明し、施設周辺の安全安心について理解を得るよう努めた。 新ごみ処理施設建設に向け、候補地を選定し周辺町内会の理解を得るため、説明会等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 現有施設の適正な維持管理及び安全稼働に努めるとともに、環境調査を継続し環境基準を遵守する。 新ごみ処理施設建設候補地の周辺町内会への説明を継続し、理解を得るよう努めるとともに、建設にあたっては環境への負荷が少なく、安全安心かつ熱エネルギー利用等に配慮した施設の整備を行う。

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却施設(三福寺町)の老朽化が進行している。 ・家庭系一般廃棄物の量が増えている。 <p>といったことが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度および今後の重要度が高くなっていることを踏まえ、環境基本計画やごみ処理基本計画に基づき、市民と事業者と市が協働してごみの減量と適正処理に取り組む必要がある。</p> <p>特に、焼却施設の老朽化に対応するための新焼却施設建設に向けた準備を着実に進めるとともに、あわせてごみの減量化、資源化を含めた処理方法の見直しについて検討する必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・ゴミ減量化と資源化について、レジ袋の有料化はスーパーにおいては徹底されているが、ドラッグストアやホームセンターでは、逆に無料化されている傾向である。しかしこの現象は消費者にとっては便利で有難いと感じられる。なぜなら商品は重い物、形が不定で大小様々、香りや危険性のある物など多様であるため、手持ちの袋では対応できない場合があるからである。このように良し悪しだけでは考えられないケースも含めて減量化・資源化を考える猶予があっても良い。</p> <p>・高山市は、家庭で使用済み家庭用ガスボンベや各種スプレー缶などに穴を開ける回収方法だが、他市では開けない所もあり、どちらが良いか今後の検討課題として考えていただきたい。</p> <p>・ごみ処理施設の老朽化が進んでいるので、新施設建設を早急に行い、その施設から出るエネルギーの有効活用をすすめる必要がある。エネルギーのコージェネ化など、今後の大きな課題である。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成27年度事業評価における担当課評価)

関連施策	事業コード	事業名	評価	事業費決算額(千円)	
			点数	H25年度	H26年度
1-ア、1-ウ	42215	ごみ減量化推進事業費	70	11,894	12,505
1-イ	42220	ごみ資源化推進事業費	70	108,161	100,583
2-ア、イ	42200	ごみ収集事業費	70	268,904	277,218
3-ア	42280	ごみ処理施設建設事業費	75	0	128
3-イ	42205	ごみ焼却処理事業費	80	170,009	146,750
3-ウ	42210	ごみ埋立処理事業費	70	38,042	42,794

平均点	H25年度	H26年度
72.5	597,010	579,978